

2005年7月7日

国土交通大臣

北側 一雄 様

社団法人 日本建築学会

会 長 村 上 周 三

我が国建築アーカイブズ（建築関連の記録史料）環境の整備について（要望）

一般に欧米の先進諸国では都市環境や生活環境の整備に過去の蓄積を活かし、また歴史的な文脈をも重視した方向がとられています。我が国におきましてもよりよい生活環境を創成するために、都市及び建築環境の変容の過程と現状を認識する必要性はますます増大しています。一方これを認識するための建築関連の記録史料は急速に消滅しつつあり、これを放置すれば、過去の経験や蓄積に基づいて環境を充実するという方策は不可能となり、歴史的な文脈は断絶することにもなりかねません。都市や建築に関する過去の知識と情報の体系的な収集と研究は喫緊の課題となっています。

日本建築学会では2002年5月に近現代の建築資料を収集・保存・公開して建築文化醸成に寄与するため「建築博物館委員会（委員長：林昌二君（建築家）委員59名）」を設置し、2003年1月には建築博物館を開館いたしました。同博物館では、すでに伊東忠太、山田守、曾禰中條事務所、清家清、宮脇檀資料として建築図面及び関連する写真、スケッチ、模型等3万点余を受け入れ、そのデータベース作成に取り組んでいるところです。今後は公開するためのデジタル化や、修復と保存のための膨大な経費の手当が大きな課題となっています。また並行して、近代建築に関する資料の実態を様々な角度から調査研究するため、「近代建築資料総合調査特別調査委員会（委員長：鈴木博之君（東京大学教授）委員22名、設置期間：2001～2003年度）」を設置し、現存する建築資料の所在情報を収集整理いたしました。その結果に基づいて2005年度ではアーカイブズ・ネットワーク確立と収集・整理・保存・公開のための方法論を検討する予定です。

建築は人間の生活環境と深く関係し、芸術・文化・景観という領域とも密接に関係していることから、建築アーカイブズは国民ひいては国家の貴重な文化的資産と言っても過言ではありません。建築アーカイブズを収集・保存し後世に伝えていくことは極めて意義ある取り組みであり、国を含め国民各層の協力の下に推進すべきものと考えます。

つきましては、建築文化に係わる史資料の収集・管理・公開のための「建築アーカイブズ」の環境整備の必要性についてご理解を賜り、国土交通省における施策に特段の配慮をいただきたく要望する次第です。

なお、本会は微力ながら今後とも「建築アーカイブズ」の環境整備に出来る限りの努力を続ける所存であることを申し添えます。